

月刊 星空の散歩道 10月号

2025 年

10月上旬 21時ごろ
10月下旬 20時ごろ の空
ステラナビゲータ/
株式会社アストロアーツ



10月の星空

☆夜空の主な星座と明るい星☆

夏の星座は西と天頂、秋の星座は南と天頂、冬の星座は東の空に見えています。

- < 西 > こと座 (ベガ)、わし座 (アルタイル)
- < 天頂 > はくちょう座 (デネブ)、ペガサス座、アンドロメダ座
- < 南 > みなみのうお座 (フォーマルハウト)
- < 東 > ぎょしゃ座 (カペラ)
- < 北 > 北極星、カシオペヤ座

☆天文トピック☆

10月6日 中秋の名月

旧暦8月15日に見える月のこと。「お月見」を楽しむ風習は中国で始まり、日本では平安時代に貴族の間で広まったと言われています。ススキを飾り、月に見立てた団子や芋を供えて、農作物の収穫をお祝いします。この日、明るい月の近くに土星がありますが、月がまぶしくて見えにくいかもしれません。

☆月の形の変化☆

- 10月7日 満月 ○
- 10月14日 下弦 ◐
- 10月21日 新月 ●
- 10月30日 上弦 ◑

☆10月の惑星☆

- 土星…日没後、東の空
- 木星…明け方、南の空
- 金星…明け方、東の空低く

<天文コラム> 再び、月へ

地球から約38万km離れた月は、人類にとって最も身近な天体であり、宇宙開発における有人探査の大きな目標となりました。1969年のアポロ11号による人類初の月面到達は、科学技術の発展を示す偉大な成果でした。しかし、月への有人探査は莫大な経費がかかり、なおかつ、空気も液体の水もない月での長期滞在の方法もなかったことから、その後は無人探査機による調査のみとなりました。



アポロ11号による人類の月面到達

ところが1990年代以降、状況は変わり始めます。世界各国の調査や研究の結果、月にはエネルギー資源として注目されるヘリウム3や、レアアースなどの鉱物資源が存在する可能性が示されました。さらに、極域のクレーターには太陽光が届かず、氷の形で水が存在することが確認されました。この「水」は、人類の生命維持だけでなく、水素と酸素に分解すればロケット燃料としても利用できることから、資源開発のための長期滞在や火星探査の中継拠点の建設が現実的なものになってきています。

こうした発見により、月への関心が高まり、再び有人探査の対象となりました。そして、現在進行中の「アルテミス計画」へとつながっていったのです。

